

2025 特定非営利活動法人IMAGINUS（イマジナス） 東広島市志和町で田舎をひらく「えほんの森」

えほんの森のフィールドは、築100年の古民家と里山、田んぼが広がる東広島市志和町。合鴨やミツバチ、イノシシや鹿が暮らす自然の中で、「子どもたちがのびのび育つための場所」を、子どもたちと親たちと、みんなで作っています。



本活動の目的

えほんの森は、子どもが安心して育つための“親子の居場所”です。絵本・自然・小さな共同作業を通して、子どもが人と関わり、頼り合える優しい場所をつくります。

挑戦する課題とその背景

核家族化や転勤、コロナ禍によって、子育ては“ひとりで抱え込むもの”になりつつあります。私自身もその当事者でした。子どもの転園の繰り返し、変わる友人関係、そして外出自粛。助けを求められない日々は、深い孤独と息苦しさを生みました。田舎の暮らしは不便です。田んぼに水を引くにも、地域の草刈りを終わらせるにも、誰かと声をかけ合えないと成り立ちません。その“不便さ”が、人と人が自然に頼り合う土壌になります。親が安心して頼り合える環境は、子どもが自由に遊び、挑戦できる土台にもなります。えほんの森では、主催者がすべてを準備しません。タープ張りや火起こしも、子どもやお母さんたちと一緒にいきます。“やってもらう”のではなく、“一緒につくる”。その中で「ちょっと手伝って」「少し見ていて」といった声が自然に交わされ、ゆるやかなつながりが育っていきます。目指すのは「他人の親戚」です。

えほんの森の場の作り方

イベントの日には納屋を開け放ち、机いっぱい絵本を並べます。読んでも、眺めても、ぼーっとしていてもいい。自然の中を駆け回ってもいい。絵本の“自由な想像の世界”は、子どもたちのペースにそっと寄り添い、心をひらくきっかけになります。「この本読んだことある!」「うちにもあるよ」そんな小さな会話が、初めて会う親子同士でも自然に生まれ、えほんの森を“居場所”として育ててくれています。子ども同士の関わりも、ここから自然に広がっていきます。

取組の成果

活動を通して、約50名+αの方々と豊かな時間を過ごすことができました。

また会いたくて、本当に会いに来る関係

虫捕りが好きな少年が、えほんの森で出会った木登り達人のお兄ちゃんに夢中になり、「また会いたい!」と次の開催日に本当に会いに来ました。異年齢の関わりが深まり、子ども同士が学び合う姿が育っています。

地域に子どもの声が戻る

古民家の隣のおじいちゃんは、「賑やかな声が聞こえると元気が出るよ。この地域のいいところを残すために自分もできることをするね」と話してくださいました。地域の大人が子どもを見守り、関わる循環が生まれています。

「ひとりじゃない」が静かに伝わる

3人の子どもを連れて参加するお母さんの姿を見て、「自分だけが頑張っているんじゃないんだ」と話してくれた方がいました。親の安心は、子どもがのびのび遊べる雰囲気につながっています。

えほんの森は、大人にも子どもにも「ひとりじゃないよ」と伝えてくれる場所。自然と人との出会いが、静かに、確かに、子どもの育ちを支えています。



6 / 8

SUN

31名

田植えとおにぎりとお汁の会

田んぼに入るのをためらう子もいれば、泥で競走を始める子もいて、それぞれが自然を全身で感じながら手植えを楽しみました。作業のあとは、自分で握ったおにぎりを持ち寄り野菜のお汁をみんなで囲み、「外で食べるとどうして野菜が食べられちゃうの？」という声があがるほどの美味しさでした。



7 / 25

SAT

20名

新月オープンデイ

里山から大きな竹をみんなで切り出し、ノコギリや鉈を使って器や竹灯籠を。蚊取り線香も手づくり。焚火で焼いた野菜のおいしさに笑顔が広がり、お月さまの下、竹灯籠のあたたかな光に包まれた夜でした。「こんな真っ暗の中を外で歩くこと、なかなかないよね」と子どもたちの声が響きました。



9 / 13

SAT

40名

そうめん流しとすいか割り

この日も竹を切って割るところからスタート。達人のお姉さんたちに習い、そうめん用の器と箸を自分で作りました。水が流れ始めるだけで子どもたちは大喜び。たらふく食べて、そうめん足りずビーフンやうどんも流れる会に発展。子どもたちのアイデアに感謝です。甘いスイカも最高でした。



11 / 29

SAT

37名

焼き芋とお汁の会

冷たい井戸水で4種類のお芋を50個ほど洗い、火加減を見ながら投入しました。待ち時間には恒例の野菜お汁づくり。焚火を使ったおやつも。乾燥していたので里山へ薪を取りに行き、木登りも楽しみました。クリスマス前ということで、自然素材のリース作りにも挑戦しました。合鴨との交流も！



12 / 21

SUN

17名

お正月準備の会

えほんの森の田んぼで育った稲藁を使い、しめ縄づくり。子どもたちとお母さんたちの工夫が光り、世界に一つの作品が完成しました。この日も里山へ薪を取りに行き、名もなき遊びが自然に広がりました。焚火おやつもすっかりお手のもの。教え合い・関わり合い・育ち合いが進んでいます。

